

2-1 地域福祉の推進

人と人がつながり、地域のみんで助け合い支え合う環境づくりを進めます。

■現在の市の取組に対する総計審委員のご意見

人と人のつながりや支え合いの推進体制の充実

- ・高齢者等の自宅での生活支援について、ゴミ出しについての取り組みが記載されていた。生きがいを持って、健康に過ごせることが前提となるが、ゴミ出し以外にも多様な支援ニーズがあるように思われるので、きめ細かな支援に取り組んでいく必要があるように感じる。
- ・社協だけでなく自治体・民間の活用も明確に散りばめてはどうか。
今後の社会状況や将来を見据え、国の枠組み内だけでなく、市・独自の後見制度の様なサービス（サービスと財源）・条例の検討も進めるべき
- ・コロナ禍のため、人と人とのつながりや支えあいが難しくなっているが、孤独死や孤立を防ぐための対策の検討をしてほしい。予算的に無理かもしれないが、保険会社が行っている様な、電気ポットの利用で安否確認を行えるようなシステムや非常ベルのように、ボタン一つで緊急事態を知らせることが出来るシステム等である。
高齢者や1人暮らしの人たちに、何が必要か聞くことも一つだと思う。
- ・挙げられている取組はどれも素晴らしいものだと感じるが、実際にどれほど実現できるのか気になる。自らそのサービスを利用しに行くとは考えるのが難しいので、それをどう周知させるのかまで見通すことが求められると思う。また、声をかけるとあるが、それを担う人材はいるのか、キャパオーバーにならないかまで考えておいた方が良いかと思う。
- ・意識の高い人や施設が多くあると聞いています。
- ・成年後見制度について
成年後見制度は、認知症高齢者やひとり暮らしの高齢者が増加する中、こうした方々の財産等の権利を擁護するため、大変重要な制度と考えています。
そうした中、貴市では、成年後見制度の利用促進に様々に取り組まれていることが分かりました。「市民後見人の養成については、現在実施している講座のあり方や手法を見直し検討を図り推進していく」とのことですが、制度の推進のためには、多くの優れた人材を養成することが欠かせないと思いますので、よりよい手法等を期待したいと思います。

2-2 健康づくりの推進

誰もが心身ともに健康でいきいきと暮らすことができる環境づくりを進めます。

■現在の市の取組に対する総計審委員のご意見

市民の自主的な健康づくりの推進

・色々なガン検査をやってはいますが、一つ一つ時間がかかると思います。早期発見がしやすい、血液検査に変えてほしい。

・可もなく不可もない中で、近年の社会変革（DXを活用した）健康づくりを推進する取り組みが合っても良いのではないかと。アプリによる市民の健康管理・イベントなど。

・こんなご時世なのでフレイルに危険性の高い方が増えてきていると思います。二次予防高齢者に対するの未病予防の活動が気になります。

地域医療体制の充実

・休日診療所が「湖北」一箇所ではなく、もう少し人口の多い地域にあっても良いのかなと。

・市から検診のお知らせが定期的に来ており、相談できる環境も整っていると感じる。

・第二次救急などの医療体制はこの人口に対して十分だと考えます。

・すぐには難しいと思いますが、柏市のように、休日診療所で夜間診療が導入されると良いと思います。我が家は子どもの夜間診療が必要なときは、柏の診療所を利用していました。

感染症対策

・基本的に、国の制度に沿った形で適切に実行できていれば十分である。突飛な事やアイデアでする事でもなさそう。

・情報をホームページと広報紙に集約しているが、もう少し情報の拡散媒体を広げてはいいのではないかと。

・都内と行き来する人が多いわりには、さまざまな職のお店の方の協力や一人一人の行動のおかげで抑えられているといえるのではないかと。

・だれも予想していない出来事の最中なので意見はありません。みんなで踏ん張る時だと思えます。

・他の市と比べても早期対応、市民への周知、早期接種、市長自らの呼びかけ等よくやっていると思う。

2 - 3 高齢者福祉の推進

高齢者が生きがいを持ち、住み慣れたまちで自分らしくいきいきと生活できる環境づくりを進めます。

■現在の市の取組に対する総計審委員のご意見

健康でいきいきと生活できる環境づくり

・高齢者等の自宅での生活支援について、ゴミ出しについての取り組みが記載されていた。生きがいを持って、健康に過ごせることが前提となるが、ゴミ出し以外にも多様な支援ニーズがあるように思われるので、きめ細かな支援に取り組んでいく必要があるように感じる。(2 - 1と同じ)

・高齢者福祉の推進とともに、家族、子供世帯が近居・同居などを後押しする、別な角度での補助や仕組みを入れてはどうか。

・コロナ禍を踏まえると、特に高齢者はなかなか交流することが難しくなっていると考えられる。この状況で孤立しないためにどのようなことができるのか疑問に思う。

・未病予防対策としてリアル活動再開をお願いします。

・以前、横浜市で導入されている元気ステーションの活動内容を聞いたことがあります。今後の超高齢化に向けて、高齢者が気軽に立ち寄れる場所に、気軽に参加できる催しなどを導入し、コミュニティを育てられる仕組みを作れると良いと思います。あびこショッピングプラザでも、朝ラジオ体操を行っており(いまはコロナ禍のため8のつく日のみ)、たくさんのシニア世代が参加されています。こんな場所が随所にあると良いなと感じています。

地域包括ケアシステムの充実

・医療体制が整っていても、高齢者等は具合が悪くなった時に連絡することすら難しいはずである。そのため、地域包括ケアシステムの中にボタン一つで居住地に近い病院やかかりつけ医に連絡が付くようなシステムがあるとよい。

・ケアマネジャーの質向上は大きな課題かと。

・地域に根差した活動が出来ていると考えます。

・「高齢社会への対応を探る会」というものの存在を知りませんでした。それなりの活動がなされているのかしら?と思いました。

2 - 4 障害者福祉の推進

障害のあるすべての人の個性が尊重され、自分らしく安心して暮らせる環境づくりを進めます。

■現在の市の取組に対する総計審委員のご意見

障害福祉サービスに関する相談・支援の実施

・障害者福祉全体として、サービスに関する相談支援と、社会参加・自立支援の2つに分けている事で、利用者や保護者が、本来の目的（自立かどうかは別として）が薄まらないかと感じた。状況に応じた目標ステージを他の者が、「がんばってるな。」と見える形にしてはどうか。

・障害者に対する支援の他にも家族に対する支援や家族間での繋がりがについて検討することもいいと思います。

障害者の社会参加・自立支援

・障害者への理解促進に関する取り組みだけでなく、地域共生社会を実現していくため、公共交通機関をはじめ、まち全体のバリアフリー化の推進や、雇用・就業、経済的自立の支援などについての取り組み方針を具体的に明示すべきではないだろうか。

・障害者の社会参加・自立支援を推進するためには、人手を必要とすることなので、専門学校や大学への協力を我孫子市として積極的に依頼をしてみしてほしい。

・制度があっても事実上活用されているか、点検が必要。